

研究実施のお知らせ

2025年10月08日 ver.1.0

研究課題名

脊髄くも膜下腔モルヒネによる胸部および腹部手術の術後疼痛管理：鎮痛効果と副作用に関する後ろ向き調査

研究の対象となる方

2025年4月から2025年9月の間に島根大学医学部附属病院で胸部または腹部手術を受け、その際に脊髄くも膜下腔モルヒネ投与を受けられた方

研究の目的・意義

脊髄くも膜下腔へのモルヒネ少量投与は、50年以上前から行われている術後鎮痛法です。下肢手術や下腹部手術を中心に行われてきましたが、胸部手術や上腹部手術でも有用であることが報告されています。しかし、胸部手術や上腹部手術では現在のところあまり普及しておらず、使用するモルヒネの投与量には標準的とされるものはありません。島根大学医学部附属病院（以下当院）では、最近この脊髄くも膜下腔へのモルヒネ投与による術後鎮痛を、胸部手術や上腹部手術の患者さんに行うようになりました。本研究では、胸部手術や上腹部手術を受けた患者さんを対象に、脊髄くも膜下腔モルヒネの効果と副作用について調査することにしました。この調査の結果が、術後疼痛管理の質の向上につながることを期待しています。

研究の方法

対象になる方のカルテから以下のデータを収集します。

- 1) 患者背景：年齢、性別、身長、体重、ASA-PS (American Society of Anesthesiologists physical status)
- 2) 手術・麻酔に関する情報：手術術式、手術時間、麻酔時間、脊髄くも膜下腔モルヒネ投与量、その他の術中麻薬使用量
- 3) 術後に関する情報：術後疼痛スコア、鎮痛剤の種類と使用時間、術後24時間以内の呼吸回数の最低値、徐呼吸（10回/分未満および12回/分未満）の発生時間と持続時間、術後の酸素化の値と低酸素状態となった時間、痒みの有無と処置、嘔気嘔吐の有無、制吐剤の使用、その他合併症

以上の情報について、鎮痛効果や副作用の頻度などを調査します。

収集したデータは、島根大学医学部麻酔科学講座の外部から用意にアクセスできないPCに保管します。PCにはセキュリティを設定し、パスワードで使用可能な研究者を制限します。

この研究に関するデータ等は、個人を特定できないように記号化した番号により管理します。あなたの個人情報を個人が特定できる形で使用することはありません。また、お名前などのリストは収集データとは別に、施錠可能な場所で研究責任者が適切に保管します。外部への持ち出しあは行いません。

研究の期間

2025年11月20日～2026年10月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部麻酔科学講座 青山由紀

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2026年6月までにお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部麻酔科学講座 青山由紀

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2295 FAX 0853-20-2292